

平成 22 年度「学校教育自己評価」について

1. 本校の学校評価への取り組み

本校の学校評価への取り組みは、平成 15 年度（2003 年度）からの成果指標を設けた部門別（分掌・学年・教科）の自己点検に始まり、平成 19 年度からは生徒および保護者に学校教育診断アンケートを実施し、さらに昨年度からはそれらと教員による評価結果との比較を行っています。様々な視点からの評価を加味し、より総合的な評価ができるように努めてきました。

今年度も全生徒にアンケートを取るとともに、1 月下旬に 724 人（中学および高校全学年）の保護者に用紙を郵送し、回答のご協力をお願いしましたところ、457 人の保護者の方から回答をいただくことができました。回収率は 63%（昨年度は 60%）という結果となりました。若干ではありますが回収率が増加し、保護者の方々のご協力に感謝いたします。来年度の数値目標として 70%を掲げ、引きつづき日々発信に取り組んでいく所存です。具体的には、各学期の学級懇談会でのアピールや学級通信・学年通信でのお知らせ、メール配信の活用を考えております。

さて、今回の保護者用アンケートも、経年比較がしやすいよう、全 30 項目ともに昨年度と同じ項目を使用しております。選択肢も同様で「よくあてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・まったくあてはまらない・わからない」としました。

また今年度は、教育指標を 8 つのカテゴリーに分け、アンケート項目もそれに類するように整理しました。それにより、生徒・保護者・教員の三者の評価を比較しやすくし、統合した学校教育自己評価を行うことができたと考えます。

2. 保護者アンケートのまとめ

例年どおりの分析手法を用い、選択肢の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を選択された合計人数の比率を「プラス評価」、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を選択された合計人数の比率を「マイナス評価」の数値とみなし、検討いたします。

以下、(1)～(3) の場合に分けて報告いたします。

(1) 選択肢の「わからない」の比率が 25%を超えた項目について・・・6 項目

昨年度とまったく同じ 6 項目が該当いたしました。「プラス評価もマイナス評価もつけづらい」という場合と「情報提供が不十分」という場合の両方があると考えられますが、項目の内容と学校・教員の動きからしましても、どちらかといえば後者に原因があるように思います。項目により差異はありますが、我々の活動そのものを強めるとともに保護者への広報活動を強めない限り、好転しないと思われます。そのことを重視し来年度の教育活動を進めていきたいと思っております。

① 学校は温暖化・リサイクルなどの環境問題に留意している

・・・「わからない」 42%（昨年度 41%）

「プラス評価」・・・ 46%（昨年度 46%）

「マイナス評価」・・・ 12%（昨年度 14%）

「わからない」という回答率、プラス評価の回答率ともに、昨年どおりの結果となりました。

生徒会による環境問題に対する活動は徐々に進んできているのですが、現在のところそれを保護者にあまり伝えられておりません。教職員レベルの光熱費削減に向けての取り組みの発信については皆無に等しいといえます。生徒会新聞での取り上げやHPでの発信など広報手段と方法を検討する必要があります。

②学校や教員に、保護者の声がとどいている・・・「わからない」29%(昨年度31%)

「プラス評価」・・・53% (昨年度48%)

「マイナス評価」・・・18% (昨年度21%)

「わからない」の回答率は若干ながら減少し、プラス評価は増加するという良い傾向を表す結果となりました。昨年度の反省を活かし、学級懇談会や個人懇談会でよせられたご意見や、個人的にご相談いただいた内容について、保護者へのフィードバックを必ず行うことを意識した結果であると思います。ご要望に対して、お応えできないものについては「できません」という回答を、また、検討中であつたり結論がまだ出ないものについてはその進捗状況をお伝えし、レスポンスを早くすることに、今後も細心の注意を払わなければいけないと考えます。

③学校からの宿題や課題は、質・量ともに適切である・・・「わからない」30%(昨年度28%)

「プラス評価」・・・51% (昨年度53%)

「マイナス評価」・・・18% (昨年度20%)

マイナス評価は減少したものの、プラス評価も減少するという結果となりました。昨年度の結果を踏まえ、各教科に課題のあり方について再検討していただきましたし、教員対象の同項目の結果はプラス評価として86%であったことから、課題の量・質については概ね適切であると判断します。しかしながら、保護者の目にはそのように映っていないことから考えても、生徒が家庭で効果的に課題をこなせていないと思われます。生徒の意識の高揚を図るとともに、生徒が家庭でしっかり課題に取り組めるようなシステムを構築することが不可欠であると考えます。

④学校はいじめや校内暴力のない学校づくりに取り組んでいる

・・・「わからない」30%(昨年度27%)

「プラス評価」・・・62% (昨年度66%)

「マイナス評価」・・・8% (昨年度7%)

項目の内容が内容だけに真摯に受け止めざるを得ない結果となりました。今年度、学級通信や学年通信では意識してこのテーマを取り上げてきましたし、特に人権教育委員会の通信である「じんけん」では、より強化された内容の発信に努め、昨年度よりも数段上の活動が展開できたと思います。それだけに残念な結果と言わざるを得ません。早急に原因の所在を検証する必要があります。

⑤学校のホームページは必要な情報を備えている・・・「わからない」31%(昨年度27%)

「プラス評価」・・・59% (昨年度61%)

「マイナス評価」・・・9% (昨年度12%)

良い傾向に移行した昨年度と比較をすれば、若干後退した感があります。しかし、マイナス評価が9%であることから、評価をつけづらいというより、HPの内容についての発信が不十分ということに起因すると思われます。さらに言えば、HPをゆっくりご覧いただけていない方もおられるでしょうし、「必要な情報とは何か？」ということに悩まれる方もおられるかと思えます。まずは、保護者の方が、HPに何を期待されているのかを情報収集する必要があります。そうしたご要望を少しでも反映することで改善につながるのではないかと考えます。

⑥学校は読書活動に熱心に取り組んでいる・・・「わからない」27%(昨年度26%)

「プラス評価」・・・57% (昨年度52%)

「マイナス評価」・・・16% (昨年度21%)

「わからない」の回答率は昨年度と変わらずでしたが、プラス評価は5%増加、マイナス評価は5%減少となり、大きく前進したと考えます。図書室司書も2年目を迎え、図書委員会と連携をとりずいぶん精力的に活動できました。その結果、たとえ本を借りずとも放課後に図書室を訪れ本を少し読んでから帰宅する生徒等、今年度の来室数は、昨年度よりも格段に増加したことがデータにも表れています。「わからない」の回答率を減少させるためには、そうした活動をどのように周知するかにかかっていると思います。

(2) 70%以上の方が「プラス評価」の回答をされた項目について

この(2)に該当する項目は、全30項目中21項目(昨年度19項目)ありました。昨年度より該当する項目数が増加し、概ね良好に教育活動が推進できたと感じております。

この21項目中で、昨年度より「プラス評価」の回答率が増加もしくはほぼ現状維持であった項目を以下に列挙します。

- 先生は授業や教育研究等に熱心に取り組み、生徒に対する学習指導をしっかり行ってくれる
83% (昨年度84%)
- 子どもは学校の夏期・冬期講習によく参加している
75% (昨年度73%)
- 先生は子どものことについて、家庭への連絡も密で、よく相談に応じてくれる
71% (昨年度71%)
- 先生は子どもの努力を評価してくれる
82% (昨年度80%)
- 学校は、授業参観をはじめ保護者が来校する機会をよく設けている
89% (昨年度88%)
- 学校は保護者に教育方針をわかりやすく伝えている
79% (昨年度77%)
- 生徒の身だしなみ(服装や髪型)は良好である
86% (昨年度83%)
- 先生は子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる
77% (昨年度75%)
- 学校の生徒指導の方針に共感できる
79% (昨年度80%)
- 学校は生徒に社会のルールを守る態度を育てている
78% (昨年度79%)
- 学校では先生・生徒ともに挨拶がよくできている
83% (昨年度80%)
- 学校は生徒に将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている
78% (昨年度77%)
- 学校は進路ガイダンス等をとおして、保護者に進路情報を適切に提供している
80% (昨年度79%)
- 子どもは学校行事に積極的に参加している
82% (昨年度82%)
- 学校は生徒の安全や事故防止に配慮している
72% (昨年度66%)
- 学校の施設・設備、学習環境は整備されている
72% (昨年度66%)
- 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている
79% (昨年度72%)
- 子どもは、学校に楽しく通っている
88% (昨年度83%)
- 大阪青凌に、子どもを入学させてよかったと思っている
87% (昨年度82%)

(3) 「マイナス評価」が20%以上あった項目について

全30項目中3項目(昨年度6項目)が該当し、この3項目は昨年度も該当しているものです。該当項目数が減少したことは、一定の成果の表れではありますが、依然同じ3項目が該当していることは、遺憾に思う次第です。どこに問題があったのかを再度検証し、来年度に向け各部署にさらに効果的・実践的な方策を検討する必要があると考えます

①子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる

「プラス評価」	53% (昨年度48%)
「マイナス評価」	46% (昨年度51%)

ここ数年の最重要項目として位置づけて、各部署・各学年・各教科において具体策を講じ実践してまいりました。若干改善傾向が見られましたが、保護者の方にはまだまだ満足のいく結果となっていないことは、たいへん残念に思います。(1)の③で述べましたように、課題の量等については、家庭学習における題材として十分に生徒に提供できていると判断しておりますが、依然それらを生徒に「やりきらせていない」ことに原因があると思われまます。課題提出・予習確認などのチェックの甘さも考えられますが、学ぶことの価値・喜びに出会えていない生徒がいるのかもしれませんが。自ら学ぼうとする意欲を沸き立たせられるような授業展開・家庭学習題材が必要であると考えます。各部署から、生徒の興味を引く具体的な題材とモチベーションの高揚を図る取り組みを検討していきたいと思ひます。

②子どもは学校の夏期・冬期講習によく参加している

「プラス評価」	75% (昨年度73%)
「マイナス評価」	23% (昨年度25%)

わずかながら改善傾向を示す結果を得られました。しかし、マイナス評価が20%を超えた事実については、更なる努力が必要であることは言うまでもありません。その原因としては、自由参加形態の講習が増加したこと、対象者を絞った講習形態を導入したことが挙げられます。いずれにせよ、自分を高めようとする意欲を向上させることができれば、自ずと改善すると考えます。自己実現を促す進路学習的な側面も付加し改善策を講じていきたいと思ひます。

③学校の施設・設備、学習環境は整備されている

「プラス評価」	72% (昨年度66%)
「マイナス評価」	21% (昨年度27%)

昨年度に続き、施設や設備が新設・増設されたことはなく、現状維持であったことは否めません。しかしながら、昨年度、保護者からいただいた設備についての指摘については対策を講じたつもりです。そのあたりのことが、改善傾向を生んだことと思われまます。法人全体の中・長期計画との関係もあって、大幅な改善には時間がかかるかも知れませんが、法人と相談しながら実現可能な部分から、また必要度の高いものから着手していきまます。

以上

3. 自己評価について

全体として、8項目の指標を設け、アンケート項目を分類し、生徒・保護者・教員のそれぞれの観点からのアンケート結果を総合し、学校としての自己評価をいたします。各指標について、A～Eまでの評価を行っておりますが、その基準については、以下に示すとおりです。

A : 75%～ B : 60%～74% C : 45%～59% D : 30%～44% E : ～29%

カテゴリー	評価	生徒	保護者	教員			
学習指導体制	A	わかりやすい授業が多い	78%	先生は授業や教育研究等に熱心に取り組む、生徒に対する学習指導をしっかりと行ってくれる	83%	教員は、熱意をもって授業に取り組み、教授方法などを工夫している	98%
		授業で、教え方を工夫している先生や熱意ある先生が多い	82%	子どもは学校の夏期・冬期講習によく参加している	75%	教員は、学習指導に熱心である	100%
		先生は学習指導に熱心である	87%	子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる	53%	生徒の学力は向上している	89%
		生徒の学力は向上している	76%	学校からの宿題や課題は質量ともに適切である	51%	生徒の学力向上のため、その取り組みや方策は、各部署においてシステマティックに機能している	48%
		授業担当者がその授業に来られなくなった時、おおかたは代行の教員が授業するか、教材が用意される	87%			教員は、生徒の家庭学習の定着のため、課題の質・量・チェック方法などに留意している	86%
		授業内容について先生に質問しやすい	67%				
		先生からの家庭学習の教材や課題は、質量ともに適切である	73%				
生徒・保護者対応	B	先生は生徒の意見に耳を傾けてくれる	78%	先生は子どものことについて、家庭への連絡も密で、よく相談に応じてくれる	71%	教員は、生徒の意見に耳を傾けている	93%
		先生は生徒の努力を認めてくれる	82%	先生は子どもの努力を評価してくれる	82%	教員は、生徒の努力を認め、成長を促している	98%
		先生は生徒の悩みや相談に親身になってくれる	73%	先生は子どもの悩みや相談に丁寧に応じている	63%	教員は、生徒の悩みや相談に対処できるようコミュニケーションを大切にしている	95%
		ホームページや学年・学級通信などで、学校やクラスの情報は適切に伝えられている	76%	学校や教員に、保護者の声がとどいている	53%	ホームページや学年・学級通信などで、保護者・生徒に学校やクラスの情報は適切に伝えられている	88%
				学校は、授業参観をはじめ保護者が来校する機会をよく設けている	89%		
				保護者への事務連絡や文書配布は適切である	91%		
				クラスの状況が学級通信などで保護者によく伝えられている	73%		
		学校は保護者に教育方針をわかりやすく伝えている	79%				
		学校のホームページは必要な情報を備えている	59%				
生活指導	B	生活面での、先生の指導は納得できる	63%	先生は子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる	77%	生活面での指導について、教員は生徒が納得できるよう指導している	77%
		学校のルールは集団生活をする観点から納得できる	65%	学校の生徒指導の方針に共感できる	79%	学校で、命の大切さや社会のルールなどを考える機会を豊富に提供できて	43%
		生徒の欠席や遅刻は少ない	57%	生徒の身だしなみ（服装や髪型）は良好である	86%	生徒は、概ね学校のルールを遵守し、良好に集団生活をおくっている	89%
		生徒は校内で携帯電話を使用していない	50%	学校は生徒に社会のルールを守る態度を育てている	78%	生徒は、礼儀や公共マナー、言葉遣いなどをよく身につけている	45%
		生徒は礼儀や公共マナー、言葉遣いなどをよく身につけている	64%	学校では先生・生徒ともに挨拶がよくできている	83%	教員は、校内であいさつをよく交わしている	86%
		校内では先生も生徒もあいさつをよく交わしている	80%			本校の教育活動において、校訓「稚心を去れ」「自主自律」がうまく具現	55%
		学校で命の大切さや社会のルールなどを考える機会が多い	54%				
		学校に生徒の自主性を尊重する姿勢が感じられる	66%				
		生徒は本校の校訓「稚心を去れ」「自主自律」を理解し行動している	55%				
進路学習の充実	B	学校で将来の進路や生き方について考える機会が多い	82%	学校は生徒に将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている	78%	学校では、生徒に将来の進路や生き方について考える機会を豊富に提供できている	73%
		学校での教育活動をとおして、自分の進路実現に対する意識が高くなった	77%	学校は進路ガイダンスなどをとおして、保護者に進路情報を適切に提供している	80%		
		学校は志望進路実現に向けて、生徒にチャレンジ精神を育てている	71%				
学校行事および諸活動	B	HR活動は活発で、クラス全体で取り組んでいる	70%	学校はボランティア活動や奉仕的精神を育むような活動に取り組んでいる	61%	HR活動は、計画的・機能的に運用できている	59%
		生徒会の働きにより、生徒のボランティア活動は活発である	67%	子どもは学校行事に積極的に参加している	82%	生徒は、全体的に学校行事を楽しみ感じている満足している	93%
		全体的に学校行事は楽しく満足している	74%	学校は温暖化やリサイクルなどの環境問題について、留意している	46%	生徒会の働きにより、生徒のボランティア（スクールサポート）活動は活発である	77%
		生徒はクラブ活動に積極的に参加している	63%	学校は読書活動に熱心に取り組んでいる	57%	生徒は、本校の現状の下で、クラブ活動に積極的に参加している	73%
		学校では、生徒の読書への興味や意欲を高める活動を推進している	64%			教員は、生徒の読書への興味や意欲を高められている	57%
安全管理体制	B	先生はいじめや校内暴力など、生徒が困っていることによく対応してくれる	66%	学校はいじめや校内暴力のない学校作りに取り組んでいる	62%	教員は、いじめや校内暴力など、生徒が困っていることにすぐに対応できている	98%
		生徒は安心して学校生活をおくっている	83%	学校は生徒の安全や事故防止に配慮している	72%	生徒は、安心して学校生活をおくっている	100%
		防災訓練などで、地震・火災などの発生時にどのような行動をとればよいか具体的に知らされている	77%			学校の施設・設備や道具・器具などが壊れたときはすぐに報告がなされ、修理も手早い	59%
		学校の施設・設備や道具・器具などが壊れたときはすぐに修理されている	70%			教員は、校内の安全管理体制について十分意識している	70%
生活環境	B	校内にはゴミのポイ捨ては少なく、全体に掃除ができています	69%	学校の施設・設備、学習環境は整備されている	72%	校内にはゴミのポイ捨ては少なく、全体に掃除ができています	59%
		教室は整備・整頓されている	78%			教室は、整備・整頓されている	88%
		校内は緑が多くベンチなどもあり過ごしやすい	60%			学校には、生徒がくつろげる環境が整っている	45%
		学校では温暖化・リサイクルなどの環境問題に留意している	65%			教員は、温暖化・リサイクルなどの環境問題に留意し、何らかの行動を起こしている	43%
		学校のトイレは清潔に保たれて使用しやすい	76%				
学校の満足度	B	学校へ行くのが楽しい	68%	子どもは、学校に楽しく通っている	88%	生徒は、学校生活を楽しんでいる	93%
		学校生活により、自分は全体的にずいぶん成長したと実感している	71%	学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている	79%	大阪青凌の教育活動により、全体的にずいぶん成長したと思える生徒が多い	93%
		大阪青凌に入学してよかったと思っている	71%	大阪青凌に、子供を入学させてよかったと思っている	87%	生徒の大阪青凌に対する満足度は高い	84%